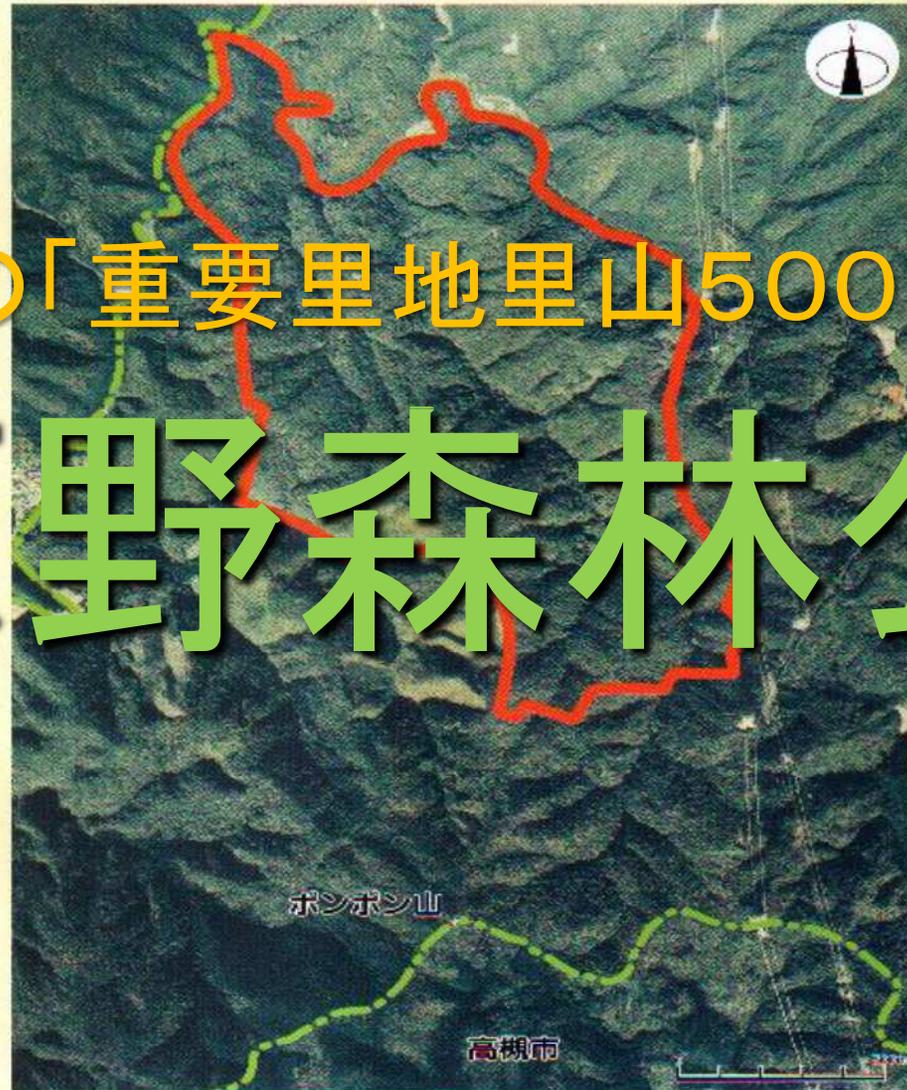


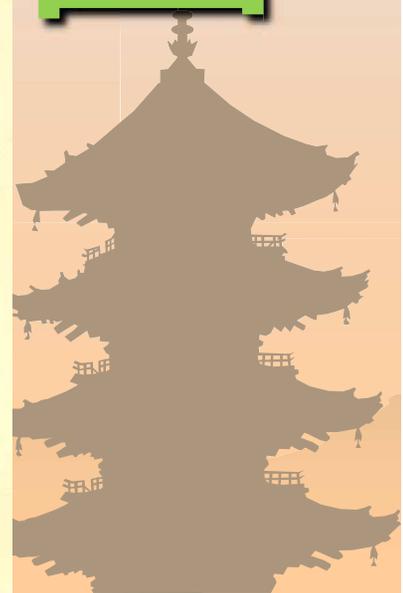
大原野森林公園

環境省の「重要里地里山500」選定

大原野森林公園



京都市



森の案内所

「自然そのものが公園施設」「自然とともに市民
とともに」をテーマに2000年4月に開園

公園面積134ha（京都御苑92ha）京都市で最大の都市公園

生物多様性の大変高い地域である

植物(羊歯含む)	863種
昆虫(蜘蛛含む)	2,334種
鳥類	109種
哺乳類	27種
爬虫類	11種
両生類	13種
淡水魚	6種
甲殻類	6種
陸産貝類ほか	23種

2022年までに確認された生物の合計3,392種

(京都大学芦生研究林 4200ha 植物 865種 鳥類111種)

人気の高いフクジュソウ 2月



京都府RDB絶滅寸前種
指定希少野生生物

キンポウゲ科

元日花とよばれ、旧暦のお正月(2月初旬)から咲き始める。一番花は大きくてきれい。満開は2月下旬。開花は天候に左右されやすい。

自生地の開放

2023年2月4日から
3月21日の間。AM10:
00~PM3:00まで

毎年約1500人の見学者があるが、その5割は大阪府から、京都府からは3割。地元の長老の話では、昔炭焼きをしていた頃は、山が黄色で染まっていたそうだ。その名残か小さい群落が周辺に残っている。長い間薪炭林として利用されたからこそ生き残っている。

イチリンソウ 4月



キンポウゲ科
いわゆるスプリング
エフェメラルと呼ば
れる春の一時期に
現れる植物の一つ。
他にエンレイソウ、
カタクリ、キバナノ
アマナ、キンキエン
ゴサク、トウゴクサ
バノオ、ニリンソウ、
フデリンドウなどの
自生がある。

主に落葉樹の薪炭林であるが故に毎年大量の落ち葉が積もる。60年前炭焼きをしていた頃は、樹木も小さく落ち葉も少なかったが、放置され60年もたつと、大木となり落ち葉の量も増える一方である。このような小さな植物にとって、大量の落ち葉に埋もれる事は命取りになる。それを防ぐため冬場の落ち葉掻きは、案内人の重要な作業の一つである。落ち葉が無くなると、様々な実生苗が目に見えて増えてくる。

ヤマブキソウ 4月



京都府RDB絶滅寸前種

ケシ科

開花時期は4月中旬から5月始め。

同時期のヤマブキの花とよく似ている。

こちらは花弁が5枚。



ヤマブキ バラ科の木本

府内ではこの公園でしか見られなくなったようだ。大きな群落があったが、ニホンジカに食べられ2007年の春は、ほとんど花も見られなくなった。急遽シカ対策を施し、防鹿ネットや防獣フェンスで囲み、被害は最小限に食い止められた。その後群落は復活し、毎年春には安定して開花が見られる。

オオキツネノカミソリ 7月



京都府RDB要注目種

ヒガンバナ科

おしべが長く突き出る。
開花時期は7月下旬から8月初旬。葉っぱの展開は3月から5月中。
よく似たキツネノカミソリは、小ぶりでおしべが出ない。開花は8月中旬。

公園の中ほどにある「カマガ谷」には広範囲にわたり群落が存在していた。われわれは有毒植物なので、ニホンジカは食べないだろうという先入観があった。ところが2010年から突如食べ始めた。対策に一番密度の濃い場所を防獣フェンスで囲み保全したが、それ以外の場所に自生していた多くの株は全て食べられて無くなった。



秋の花 9月



キタヤマブシ
よく見かける。



イヌショウマ
小さい群落が点在する。



ジャコウソウ



オタカラコウ
川沿いにはたくさん見られる。

昆虫①



ミヤマアカネ



オマガリフキバッタ



コカマキリ



ルリクチブトカメムシ



アサギマダラ

吸虫②



ミスジチョウ



オオムラサキ



カラスアゲハ



クビアカスカシバ

吸虫③



シンジュサン



ヤママユガ



アケビコノハ

昆虫④



ネグロクサアブ



ルリハナアブ



クロマルハナバチ♂



トラマルハナバチ

甲虫⑤



クロカタビロオサムシ



ポンポンメクラチビゴミムシ



タイショウオオキノコムシ



ルリボシカミキリ

その他の生き物



キクガシラコウモリ (案内所トイレの天井)



クロツグミ (初夏にさえずりが聞ける)



シロマダラ (案内所の柱で脱皮)



ヒダサンショウウオ (公園の最奥に住む)

近隣の小学校課外授業



訪れた近隣の小学校児童



イベント室で先生の話聞く



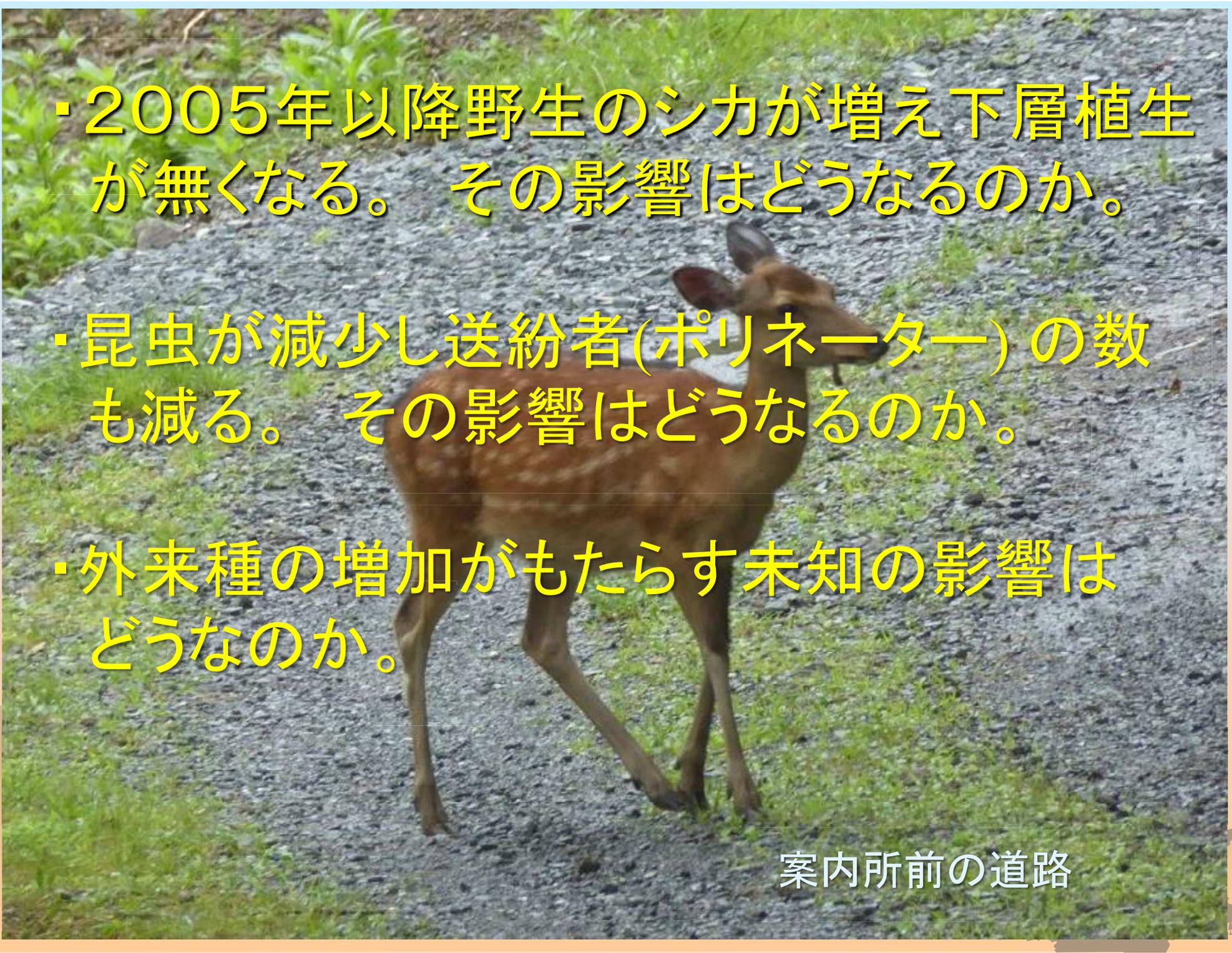
虫捕りに出かける



児童が作った作品

「現状と課題について」



- 
- ・2005年以降野生のシカが増え下層植生が無くなる。その影響はどうなるのか。
 - ・昆虫が減少し送紛者(ポリネーター)の数も減る。その影響はどうなるのか。
 - ・外来種の増加がもたらす未知の影響はどうか。

案内所前の道路

林床の植物を食べ尽くす



2008年頃までは、尾根筋まであった下層植生(下草)は、すっかり姿を消し雨水による表土の流出が止まらない。降雨の多少にかかわらず川の水が濁る。公園全体がこのような状態になってしまった。急斜面に生える樹木の倒木が増えるのが心配だ。



ニホンジカによる樹皮食害



リョウブ

他ではアワブキ、エゴノキ、ガマズミ、ケンポナシ、コクサギ、ゴマギ、ジャケツイバラ、ツルウメモドキ、ネムノキ、フジ、マタタビ、ヤブデマリ、ヤマハゼ、などなど。ほとんどの樹木は表皮をきれいに食べられると枯れてしまう。そうでなくても木材腐朽菌に侵されいずれ枯れる。遠目からでは分からないが森の中に入ると、そうして枯れたたくさんの木が横たわっている。森の主たる構成木であるコナラなどの、落葉樹の幼木も食べられてしまうので、将来的には世代交代ができず、常緑樹の森へと遷移すると思われる。



イヌツゲ



ヤブツバキ

鹿対策 防獣フェンスの設置

内側は下草が茂るが、外側にはほとんど見当たらない。



川沿いに設置した防獣フェンスが台風の豪雨により、上流から流されてきた枯れ木や枝などが引っ掛かり、壊滅的な被害を受ける。
2013年10月2日 台風18号

フェンスやネットの設置でニホンジカを完全にシャットアウトする事はできない。中には飛び越えたり、倒木や落石、または豪雨などで破損した個所から侵入する。イノシシは接地面を掘りまたは体当たりなどで大きくゆがめて侵入する。年に何度か侵入して被害を及ぼすため、常にメンテナンスは欠かせない。防獣フェンスやネットは、広く張ると侵入時の被害が大きく、狭く区切る方が効果が高い。しかし10年たてばかなり傷みが出る。

2008年 フクジュソウ自生地に防獣フェンス設置



フクジュソウ 京都府指定希少野生生物



2004年10月

自生地同じ場所

2008年6月



表土の流出により根が乾き枯死する



シカの食害により林床植物が激減

2012年 フクジュソウ自生地をイノシシに荒らされる

2012年12月イノシシの集団に入られた。防獣フェンスの接地面を掘って侵入する。凄まじい堀跡とフクジュソウに大打撃を与える。その後の対策として接地面をネットで補強する。



広範囲に重機で掘ったような跡を残す。



侵入口の一つ。
フェンスの下部を掘って侵入する。フェンスも変形している。

対策として、フェンスの下部を
ネットで二重に補強する。

掘り起こされた多くの株は現地に植え戻したが、発見が遅れ根が乾燥していたので復活しなかった。

ヤマブキソウ自生地に防獣フェンス設置



2007年に最初のネットを張る。



2010年 フェンスの設置



2011,12年左斜面へ拡張



フクジュソウ自生地とヤマブキソウ自生地のフェンスやネット張りの資材運びに、延べ200人のボランティアのご協力をいただく。

オオキツネノカミソリ自生地に防獣フェンス設置



葉っぱを食べられる



花も食べられる



花茎は食べない



2012年2月 防獣フェンスを設置



地下の球根まで食べる

その他の設置



2013年 フタバアオイゾーン
希少種ではないが、京都三大祭りの「葵祭」上賀茂神社では、毎年1万本以上の葉っぱが使われる。



フタバアオイの花

2016年 シダゾーン

以前は植林地内の園路に、かぶさるほど繁茂していたが、すっかり姿を消してしまった。豊富な種類のシダを復活させるのが目的。



2～3月 フクジュソウに訪花する昆虫



送紛者(ポリネーター)の姿が見られなくなった。種子は主に「しいな」(不稔種子)だ。



以前はいくらでも見られたフクジュソウの実生の双葉、今では探してもなかなか見つからない。このままでは、近々減少に転じる可能性が大である。早急に対策が必要と思われる。



ダンドボロギク 白い綿毛が雪のように青空に舞い上がり、生息範囲を広げる。



ソウシチョウ (特定外来生物)
いつの間にか増え、今では群れで行動するのを確認できる。元々は飼い鳥。

外来種の侵入



ブタナ 名前のわりに花はかわいいが、繁殖力は半端でない。



アライグマ (特定外来生物)
公園に与えるダメージはかなり大きい。

アライグマによる掘り返し



ヤマシロネコノメ **京都府RDB絶滅危惧種**



カヤの木の根の食害により枯れて倒れる木が続出。掘り返しで園路が埋まる事も。川の両岸の掘り返しでヤマシロネコノメなどの希少植物に影響する。サワガニなどの生き物が食べられ姿を消す。水が常時濁る。捕獲作戦で6頭捕獲、その後被害はなくなったがセンサーカメラには写っているので、今後も同じことが繰り返される可能性がある。

公園内で確認された外来種

- ❁ 昆虫 アオマツムシ ヨコヅナサシガメ アワダチソウグンバイ ミナミトゲヘリ
カメムシ マツヘリカメムシ タイワンタケクマバチ ラミーカミキリ
- ❁ 植物 ツルタデ アレチギシギシ ヨウシュヤマゴボウ オランダミミナグサ
ウシハコベ コハコベ ミチタネツケバナ アレチヌスビトハギ ムラサ
キツメクサ シロツメクサ ムラサキカタバミ オッタチカタバミ コニシ
キソウ ナンキンハゼ チョウジタデ アレチマツヨイグサ メマツヨイグ
サ オオフタバムグラ マルバアサガオ アメリカイヌホオズキ タチイ
ヌノフグリ オオイヌノフグリ キササゲ ブタクサ アメリカセンダング
サ ヒレアザミ アメリカオニアザミ ベニバナボロギク アメリカタカサ
ブロウ ダンドボロギク ヒメムカシヨモギ ハルジオン タチチチコグ
サ チチコグサモドキ ブタナ ノボロギク セイタカアワダチソウ オニ
ノゲシ ヒメジョオン セイヨウタンポポ ナガイモ コヌカグサ メリケン
カルカヤ イヌムギ カモガヤ シナダレスズメガヤ オニウシノケグサ
タチスズメノヒエ モウソウチク
- ❁ 動物 チョウセンイタチ ハクビシン アライグマ ノネコ ノイヌ
- ❁ 鳥類 ソウシチョウ コジュケイ ドバト

森の案内人の高齢化問題

2004年から活動を始め早20年、世代交代の時期が訪れている。
後継者と速やかにバトンタッチする事が、われわれにとって、大変
重要な課題の一つである。

- ❁ 現在8人。週2回(水曜日・土曜日or日曜日)3人体制で勤務。薄謝あり。
- ❁ 作業内容は午前10時に案内所を出発。道中に設置されている防獣フェンスやネットの点検と修繕、倒木の始末などの保守点検。午後3時に案内所に帰着下山。
- ❁ 来園者との会話や案内。道中で確認した生き物の写真を撮り名前を調べる。パソコンを使って日報作成など。

季節的作業

- ❁ 10月から「フクジュソウ自生地」の草刈りと、刈り取った草をフェンス外へ運び出し。
- ❁ 11月からその他の自生地での草刈、落葉かきなど。
- ❁ 1月フクジュソウ自生地公開のため点検と補修など。

われわれの目的は良好な里山の環境を次世代の人たちにも
共有してもらおう事です。

